

従業員の皆さんへ

日々のお仕事ご苦労様です。

先月7月28日16時27分頃に発生した熊本地震は、最大深度7を観測しました。また2016年の地震から10年という間隔で再び震度7を記録した地震として全国に大きな衝撃を与えました。震災から1か月が、過ぎようとしていますが、未だ多くの方が避難所生活をされていることや、生活に必要な水の供給等のインフラの復旧が、遅れています。被災された方への支援も全国から届いており皆さんの中にも支援を行われた方もいらっしゃるかと思います。被災者の方が、少しでも早く通常生活に戻れることをお祈りします。今回の地震と毎年9月1日は「防災の日」でもあることからもう一度「地震に対する備え、災害からの身の守り方」について取り上げたいと思います。

## 「地震大国」日本

10年間に世界中で発生したマグニチュード6.0以上の地震の約2割は、日本とその周辺で発生しています。

さらに

2021年はマグニチュード6.0以上の地震は20回、2022年は19回であり、ともに、被害を伴った地震は7回/年発生していました。

## 二次災害の危険

●火災 ●津波 ●土砂崩れ(特に豪雨後)など

例)関東大震災

1923年9月1日午前11時58分

推定マグニチュード7.9

死者行方不明者:105,385人(うち約9割が焼死)

地震が起きると

- 建物の損壊、倒壊
- 通信困難
- 交通の途絶
- 電気、ガス、水道の停止

など、外傷による命の危険のみでなく、その後の社会活動・日常生活への影響が起きる可能性があります。また気象災害と異なり、予報することが難しいという特徴もあります。

万一に備えて日頃から準備を心がけましょう。

## ＜地震に対する10の備え＞

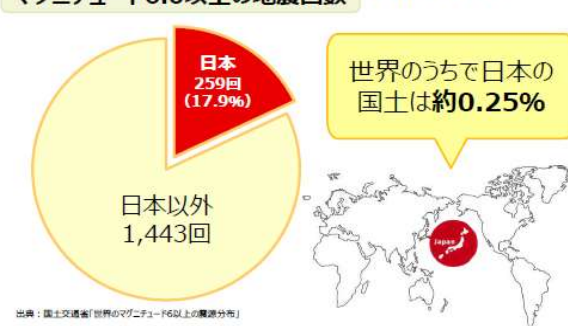
### 身の安全の備え

1. 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておきましょう。
2. けがの防止対策をしておきましょう。
  - ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
  - ・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
  - ・散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。
3. 家具や堀の強度を確認しておきましょう。
  - ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
  - ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないよう補強しておく。

### 初動対応の備え

4. 消化の備えをしておきましょう。

マグニチュード6.0以上の地震回数 (2011年-2020年)



5. 火災発生時の早期発見と防止対策をしておきましょう。

- ・火災の早期発見のために、住所用火災警報器を設置しておく。
- ・普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- ・電気やガスに起因する火災発生防止のため感電ブレーカー、感震コンセントなど防災機器を設置しておく。

6. 非常用品を備えておきましょう。

### 確かな行動の備え

7. 家族で役割や避難場所・経路について話し合っておきましょう。

- ・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- ・外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
- ・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- ・普段の付き合いを大切にするなど、隣近所との協力体制を話し合っておく。

8. 地域の危険性を把握しておきましょう。

9. 防災知識を身につけておきましょう。

10. 防災行動力を高めておきましょう。

- ・日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身につけておく。

### ＜家庭の防災対策＞

### 『日常備蓄』を実践してみましょう。

自宅で生活する上で必要な食料品や生活必需品を、日頃から備えておくことが大切です！

#### 日常備蓄のイメージ

食べ物や日用品を少し多めに購入し、日常で消費

#### 災害時に特に必要なもの

- ▶ カセットコンロ
- ▶ 懐中電灯
- ▶ 簡易トイレ
- ▶ 充電式ラジオ等



### 非常持ち出し袋

・避難した際、当面必要となる最小限の品を収めた袋で、中身は自分にとって必要なものを考え、準備することが重要です。

- |                                |                                     |                                  |                                             |                                 |
|--------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 水、水筒  | <input type="checkbox"/> 懐中電灯       | <input type="checkbox"/> ナイフ・缶切り | <input type="checkbox"/> 食品                 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ  |
| <input type="checkbox"/> ライター  | <input type="checkbox"/> 衣類         | <input type="checkbox"/> 軍手      | <input type="checkbox"/> ロウソク               | <input type="checkbox"/> 現金(小銭) |
| <input type="checkbox"/> 携帯トイレ | <input type="checkbox"/> ホイッスル      | <input type="checkbox"/> 貯金通帳    | <input type="checkbox"/> 地図                 | <input type="checkbox"/> 哺乳瓶    |
| <input type="checkbox"/> 印鑑    | <input type="checkbox"/> 乾電池        | <input type="checkbox"/> 救急箱     | <input type="checkbox"/> 携帯電話用充電器           |                                 |
| <input type="checkbox"/> 歯ブラシ  | <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災頭巾 |                                  | <input type="checkbox"/> エマージェンシーセット・ブランケット |                                 |

※いつでも持出せる場所に備えておきましょう

## 身近にあるものを活用

・災害時、限られた物資を有効に活用するために、身近にあるものを工夫して使ってみましょう。

例えば・・・

### 食品用ラップ

皿などの食器を包むことで  
使用後にラップを捨てれば、  
食器を洗わなくて済む



### 大きなポリ袋

ダンボールの中に敷くと  
水を運ぶときにゴミが入らず、  
水もこぼれない

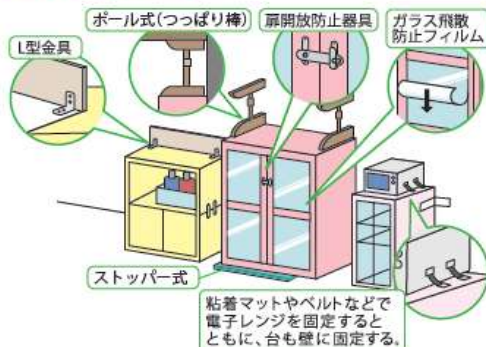


※大きなポリ袋は、底を破ぶって顔を出せるようにすれば、レインコート代わりにもなります。

## 家具類の転倒・落下・移動防止対策

・大きな地震では、倒れてくる冷蔵庫や棚の下敷きになって大けがをする恐れがあります。  
家具固定などの対策を進めましょう。

### リビングの対策例



・ドアや避難経路をふさがないように、家具のレイアウトを工夫しましょう。

### 寝室の対策例



## 《地震その時10のポイント》

### 地震時の行動

1. 地震だ！まず身の安全確保を。

・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動しましょう。  
・丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見ましょう。



## 高階層(概ね10階以上)での注意点

・高階層では、揺れが数分続くことがあります。  
・大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険があります。

### 地震直後の行動

2. 落ち着いて 火の元確認 初期消火を行いましょう。
3. あわてた行動は、けがのもとです。
  - ・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
  - ・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さないこと。
4. 窓や戸を開け 出口を確保しましょう。
5. 門や塀には近寄らないように。

### 地震後の行動

6. 火災や津波から確かな避難を。
  - ・地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難しましょう。
  - ・沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難することが大切です。
  - ・避難先は、「避難場所」「避難所」だけではありません。  
**安全であれば、自宅や親戚・知人宅なども避難先となります。**
7. 正しい情報で確かな行動を心がけましょう。
8. 確かめ合おう わが家の安全 隣の安否
  - ・電話回線がパンクするので、不要不急の電話は控えましょう。
  - ・**災害用伝言ダイヤル「171」、災害用伝言版「web171」などの活用を。**
9. 協力合せて救出・救護をしましょう。
10. 避難の前に安全確認 電気のスイッチ・ガスの元栓



※スニーカー等を履きましょう

### 避難場所と避難所の違い



「JIS Z8210, 2022」より引用

#### 避難場所

危険から逃れるために避難する場所。大きな公園や広場、大学のキャンパスや学校のグラウンドなど。



「JIS Z8210, 2022」より引用

#### 避難所

自宅が被害を受け、生活困難な場合に一定期間生活する場所。学校や公民館など。



## 《他の災害からの身の守り方》

### 台風・豪雨時の行動

1. 最新の気象情報を収集しましょう。
2. 県市町村からの避難情報に注意しましょう。
  - ・**緊急安全確保**⇒警戒レベル5 **いのちを守る行動**
  - ・**避難指示**⇒警戒レベル4 **全員避難**
  - ・**高齢者等避難**⇒警戒レベル3 **自主的避難**
3. 地下・半地下から避難する。道路のアンダーパスを回避する。
4. 建物の2階以上に垂直避難する。

### 落雷・大雪時の行動

1. 落雷の危険を感じたら安全な場所に避難しましょう。
  - ・鉄筋コンクリートの建物や自動車の中など安全な場所に避難しましょう。
2. 大雪予想なら早めの帰宅、外出は控えましょう。
  - ・やむを得ず外出する場合は、滑りにくい靴を履いて転倒に注意しましょう。

日本は、フィリピン海プレート、ユーラシアプレートに挟まれた「南海トラフ」と太平洋プレートに挟まれ地震の多い国です。今後30年以内に「南海トラフ」地震が発生する確率は、70～80%とも言われています。今回の内容を参考に、日頃から災害に対する準備を怠らず、万一の場合に備えましょう。

### お知らせ

既にご存じの方も多いと思いますが、令和8年9月1日から

**生活道路**における自動車の**法定速度**が60km/hから**30km/hに引き下げ**となります。

**法定速度が60km/hから30km/hに引き下げられる道路**は、主に地域住民の日常生活に利用されるような**中央線等が無い道路(=生活道路)**です。以下のような道路は、対象外です。

- ・中央線や車両通行帯が設けられている道路
  - ・中央分離帯等が設けられ、自動車の通行が往復の方向別に分離されている一般道路
  - ・道路標識等により最高速度が指定されている道路(道路標識又は道路標示により**最高速度が指定されている道路**では、法定速度ではなく、**指定されている速度が自動車の最高速度**となります)
- 特に道幅が狭い道路の最高速度が引き下げとなりますので、より一層安全運転を心掛けましょう！